津軽笛から津軽のいいものまで
ぶん太商店
3rdアルバム 津軽の風

津軽笛ぶんた、TSUGARUBUE BUNTA,

ニューヨーク 佐藤ぶん太 カーネギー公演 10/6

見捨てること12年 決定!!

郷土芸能の人が挑む音楽の殿堂

9歳のとき、大工だった父親が地元の町内でねぷたの骨組みを作った。生まれてからずっと年中出稼ぎだった父親がひと月以上家にいる。ぶん太、少年にとってこの上ない喜びだった。そして自分も父親の役に立ちたいと思い笛を吹き始めた。父は大変喜んでくれた。嬉しかった。あれから約三〇年。ねぷたが音楽のルーツである笛吹きが音楽の殿堂へ向かう。

史上初！日本の横笛をメインとしたカーネギー公演

「ここで演奏できたら一流奏者の証。」カーネギー公演の合言葉のように語り継がれる言葉だ。カーネギーホールで公演をすることがいかに困難で、また世界のミュージシャンにとって憧れかがわかる。同ホールで日本の横笛がメインを務めるのは今まで記憶がない。おそらくカーネギー史上初ですよ（邦楽ジャーナル田中編集長談）

―WIND OF TSUGARU―公演タイトルは津軽の風

津軽の笛を中心に行うコンサートではあるが、共演者も多彩だ。世界的太鼓奏者で、津軽から世界へ大きく広がった担ぎ桶太鼓（登山囃子に代表される）では、他の追随を許さない文字通り第一人者である林田ひろゆき氏を筆頭に、NYで活動するピアニスト、チェロ・バイオリン奏者・ブロードウェイミュージカル・ミスサイゴンでレギュラーメンバーとして活躍するパーカッショニスト Chihiro Shibayama 氏、そして板柳出身でNY在住の作曲家 金澤 恵之氏も加わる。また、今回のプロデュースはあの市川海老蔵氏や高橋真梨子氏のカーネギー公演のNY側で事務局も務めた北村ゆい氏（作曲家）と強力な布陣。NY日本領事館からも応援を受けることができる予定だ。

地方と郷土芸能に活気を！

1980年代まで弘前ねぷたの笛を吹く子ども達は多い団体になると100人以上。しかし、2000年代に入ると、数えるほどしか笛吹きがいない団体も目立ってきた。「このままでは郷土芸能は消滅してしまう。」強い危機感を感じたぶん太、は2007年伝承に修練の必要な笛の魅力を広く知ってもらい伝承者育成に繋げようと「横笛普及プロジェクト」を立ち上げた。その後2011年に自らが中心となり笛合同合奏ギネス世界記録を樹立、その時に参加した人々がねぷたに参加しはじめ、祭りに少しではあるが、活気が戻った。また、囃子の魅力知った人々は広くお囃子をたしなむようになった。地元の祭りに参加した結果、その人々は地域との関係が深くなり、今まで以上に地域へ対する誇りを持つ事が出来た。地域に貢献したいと思う人が増えた。

日本の音が津軽ある事を世界に発信したい！

津軽にある普段の音。まつり。それって実は世界的には普通じゃない事だった。今や横笛日本最高峰のコンクールが行われる弘前。津軽三味線、世界の太鼓奏者が演奏する担ぎ桶太鼓。タンスを探すと家に一本はあるねぷた笛。こんなに音楽と生活が近い地域は日本でも数少ない。この文化を世界に知ってもらい、これからもっと重要になる海外からの観光客に魅力を発信したい。人が集まれば雇用が生まれ、郷土愛を持ちながらやむなく県外就職する、またUターン就職できない人を救うことができる。そして大好きなこの青森に貢献できると信じている。コンサートは新元号元年一〇月6日観戦ツアーも計画中とのこと。